



『吸収する精神』とは？

モンテッソーリ教育とは？と尋ねると「集中」や「自発性」といった言葉が結びつけられるようで…

また昨今では、将棋界の藤井7段の登場で、とても心地の良い、大人にとって子どもが賢くなる魔法のような教育に取られ、走り歩いているところもあり、皆さまには、理論においても 正しく矢のた上で 関わりをしていただきたいと思います。

人間の赤ちゃんが持つ生まれた特別な能力の1つに、周囲の環境を何でも吸収する特別な心で「吸収する精神」があります。英語では「^{アブソーバント・マインド} Absorbent Mind」、日本語では「吸収する心」などとも呼んでいます。

マリア・モンテッソーリの著書のタイトルにもなっていることから、モンテッソーリ自身も、この子どもを養育をとても重要視していたのがわかります。「周囲の環境を何でも吸収する特別な心」とは、つまり、小さな子どもは「特別な働きをする月」を持っていて、特別に月が努力しなくても、元気で元気で、周りの全ての詳細を身に付けさせてくれるという力(心)です。

0～3歳頃までは無意識に、3歳以降～6歳頃までは意識的に吸収していくと言われています。

これは、6歳までのものであり、その後は「推測」したり「理由付け」するといった別の力が働いてきます。

小さな子どもが持っている特別な力として、「敏感期」を思い浮かべる方がいるかもしれません。

「敏感期」は、ある事柄を身につけるために、環境の中の一定の物に対してのみ感受性が特別敏感になるのに対し、

「吸収する精神」は、全体をカメラで取るように吸収します。大きく全体をつかみながら、それでいて、

小さな詳細まで捉えていく力が、吸収する心にはあるのです。



大人は、良いもの・悪いものを

より分けるフィルターを持っていますが

子どもは、そうではなく、

すべて正しいもの・良いものとして

まるごと!! カメラで撮るように

吸収してしまいます。

モンテッソーリ教育のこと&育児に役立つ本が読みたい方に、教室にある本を貸し出します。全ページ読まなくても、気になった項目だけ…パラパラと見るだけでも、何か心に留まるヒントがあるかもしれません♡教室の送迎時に何冊かご紹介しますのでお声かけください。それと、また、教室での様子のメールや送迎時のお話し以外に、家庭の中での心配事や、今、困っている育児の不安を聞いてほしい!などがありましたら、個別に懇談致しますので、お申し出ください♪



では、なぜ3歳頃までは、無意識に吸収する心があるのでしょうか？

…その前に、赤ちゃんが、真、白な無の精神状態で産まれて来ることに着目したいと思います。

モンテッソーリは、このことを「精神的月」と呼び、生後3年間を「心の形成期」だと言いました。

赤ちゃんは産まれた時には、その場所の文化(習慣・食文化・言語・宗教等)を持って

産まれてきません。どの子も「誕生した場所」を吸収する精神によって吸収していきます。

その為、どんな文化にも「適応」する事ができるのです。

小さな子どもの持つ吸収する精神とは、意識的な苦勞がなく、産まれたその国、その時代の文化に適応した人間になる為に、大切な、ありがたい力なのです。

最後に、マリア・モンテッソーリの著書『ムカ兒の秘密』より、こんな引用をご紹介します。

ムカ兒がその精神的発育期間になにを感じることは、奇跡に近いものがあります。

わたしたちは、この奇跡が目の前で行為されるのを見るのに慣れていますが、それに対して

感動しないのです。たとえば、無から出てきたムカ兒が、こんなごめいた世界で

まごつかないほどに、どうしてなれるのでしょう。牛と牛とを区別し、教わらずにただ

生活するだけで、1つの言語をその細かい見聞もいっしょに習得するように、

どうしてなれるのでしょう。これらすべてを、ムカ兒は簡単に楽しく日々暮らしながら、考えたり、

位置づけられるようになるのに、おとなが楽しい環境に慣れようとすると、どうしてたくさんの

援助がいるのでしょうか。楽しい言語1つを習得するのに、大人はひどい努力をせねば

なりません。それでいて、彼がムカ兒時に覚えた母語ほどに、使いこなせるように、

決してならないのです。